

しるこ

芥川龍之介

青空文庫

久保田万太郎君の「しるこ」のことを書いてゐるのを見、僕も亦「しるこ」のことを書いて見たい欲望を感じた。震災以来の東京は梅園や松村以外には「しるこ」屋らしい「しるこ」屋は跡を絶つてしまつた。その代りにどこもカツエだらけである。僕等はもう廣小路の「常盤」にあの腕になみなみと盛つた「おきな」を飲むことは出来ない。これは僕等下戸仲間の爲には少なからぬ損失である。のみならず僕等の東京の爲にもやはり少なからぬ損失である。

それも「常盤」の「しるこ」に匹敵するほどの珈琲を飲ませるカツエでもあれば、まだ僕等は仕合せであらう。が、かう云ふ珈琲を飲むことも現在ではちよつと不可能である。僕はその爲にも「しるこ」屋のないことを情けないことの一つに數へざるを得ない。

「しるこ」は西洋料理や支那料理と一しよに東京の「しるこ」を第一としてゐる。(或は「してゐた」と言はなければならぬ。)しかもまだ紅毛人たちは「しるこ」の味を知つてゐない。若し一度知つたとすれば、「しるこ」も亦或は麻雀戲のやうに世界を風靡しないとも限らないのである。帝國ホテルや精養軒のマネエヂヤア諸君は何か

の機會きくわいに紅毛人こうもうじんたちにも一椀わんの「しるこ」をすすめて見るが善よい。彼等かれらは天てんぷらを愛あいするやうに「しるこ」をも必かならず——愛あいするかどうかは多た少しょうの疑問ぎもんはあるにもせよ、兎とに角かく一應おうはすすめて見る價値かちのあることだけは確たしかであらう。

僕ぼくは今いまもペンを持もつたまま、はるかにニユウヨオクの或あるクラブに紅毛人こうもうじんの男だん女ぢよが七八人にん、一椀わんの「しるこ」を啜すりながら、チャアリ、チャプリンの離婚問題りこんもんだいか何なんかを話はなしてゐる光景くわうけいを想像さうぞうしてゐる。それから又またパリの或あるカツフエにやはり紅毛人こうもうじんの畫家ぐわかが一人ひとり、一椀わんの「しるこ」を啜すりながら、——こんな想像さうぞうをすることは閑人かんじんの仕事しごとに相違さうゐない。しかしあの逞たくましいムツソリニも一椀わんの「しるこ」を啜すりながら、天下てんかの大勢たいせいを考かんがへてゐるのは兎とに角かく想像さうぞうするだけでも愉快ゆくわいであらう。

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集 第九卷」岩波書店

1978（昭和53）年4月24日初版発行

1983（昭和58）年1月20日第2刷発行

初出：「スカート 第二卷第三號」明治製菓株式会社

1927（昭和2）年6月15日

入力：高柳典子

校正：多羅尾伴内

2003年6月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

しるこ

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>